

平成 30 年度第 1 回公開講座

「タイム・イズ・ブレイン ～脳梗塞からあなた（の脳）を守るために～」

脳卒中（脳血管障害）とは、脳血管が詰まったり破けたりすることでいろいろな脳の症状が現れることを言います。脳卒中のなかでも脳血管が詰まった場合を脳梗塞と呼んでいます。

脳卒中は、日本人の死亡原因の中では第 4 位で、要介護者の原因の中では第 2 位となっており、国民病とも言えます。予防医学の発展に伴い患者さんの数は減ってきているものの、入院が必要になる確率は他疾患と比較しても高く、重度の障害を残してしまった場合には患者さんだけではなく、ご家族の生活にまで重大な影響を及ぼす病気であることには変わりありません。脳の病気全般に言えることなのですが、命を取り留めても脳機能の低下により以前のような生活ができなくなってしまうということが起こり得ます。

そのような脳卒中の中で一番多い脳梗塞から脳を守るためには二つのアプローチがあります。ひとつは脳梗塞を予防すること、二つめは脳梗塞を治療することです。発症しなければ 100%脳を守れるので予防が大事であることは言うまでもありません。一方で治療については、現在の保険診療ではいかに脳梗塞で失う脳組織を少なくするか、ということが目標となっています。脳梗塞は血管が詰まる病気なので詰まった血管をもう一度開通させれば直るのではないかと誰でも考えるかと思いますが、その一方で脳組織は一定時間血流が絶たれていると血流が再開してももとの様には機能しなくなってしまうのです。

そこで、詰まった血管を再開通させる治療（再灌流療法といいます）では、一刻も早く治療を終える必要があります。そのためには、医療従事者だけではなく、救急隊員、患者さん、患者家族、目撃者の全員が一致団結して一刻も早く脳梗塞の患者さんを再還流のできるお医者さんの下へ送り届ける必要があります。そのために「タイム・イズ・ブレイン（時は脳なり）」という合言葉が脳卒中治療医の間で用いられるようになっていきます。

「タイム・イズ・ブレイン」を実現するには、行政や市民の皆様による、地域全体の取り組みが欠かせません。

市民公開講座では脳梗塞・脳卒中を予防するために必要なこと、自分や周りの人が脳梗塞・脳卒中になったらどうすればいいか？ということを中心にお話したいと思います。